

アット東京

環境への取り組み

2021年度版（2022年発行）





安心のうらに、地球への心を。

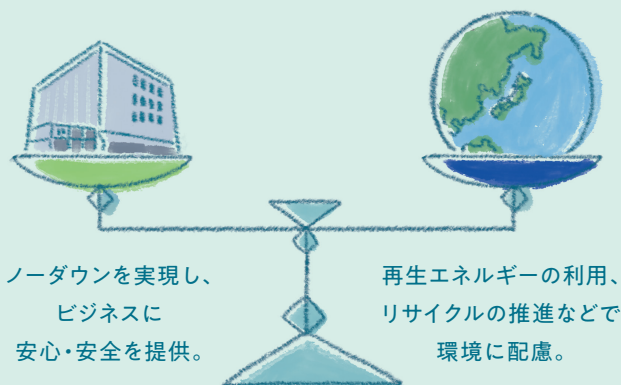
わたしたちアット東京は、データセンター。

サービスレベルを維持し、ノーダウンで運営しながら

ビジネスの安心・安全をお約束する事業です。

日々大量のエネルギーを消費し、さまざまな設備を運用しながら

常に環境への高い意識を持ち続けています。



アット東京は、環境配慮型データセンターを目指しています。

NEWS

電気使用合理化委員会委員長表彰で最優秀賞を受賞

中央センター(CC1)では、既存の水冷式パッケージ空調機の更新を機に、高効率機種の空冷式パッケージ空調機を導入。電力消費量および水道使用量の削減に成功するとともに、400Vのパッケージ空調機を新設して400V/200Vの三相変圧器を撤去し、損失を削減しました。

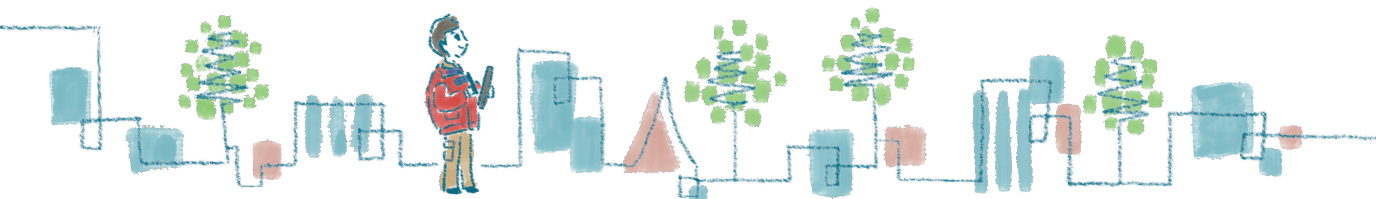
また、中央第2センター(CC2)では、フリークーリング用熱交換器の容量を増加してプレクール運転の割合を低下させ、電力消費量を削減。これらの取り組みが評価され、電気使用合理化委員会委員長表彰において最優秀賞を受賞しました。



CC1 表彰



CC2 表彰

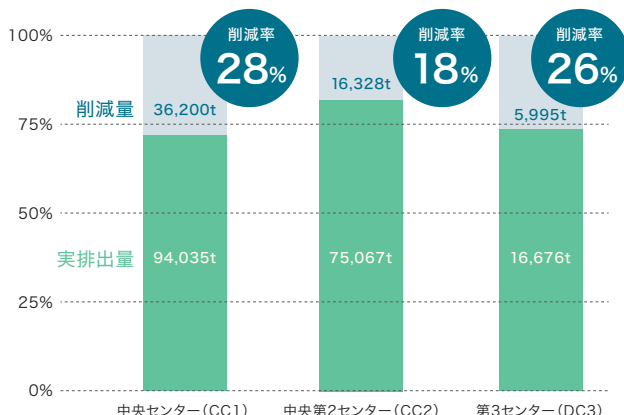


数字で見るアット東京の省エネルギー

データセンターは大量のエネルギーを消費することから、アット東京では大小さまざまな工夫を積み重ね、温室効果ガスの排出量削減に取り組んできました。

アット東京は、東京都の定める温室効果ガスの削減義務を達成するだけでなく、中央センター(CC1)、中央第2センター(CC2)、第3センター(DC3)とも削減量を年々拡大。2020年度は、3センターが対象となった2016年度と比較して、バンキング可能な削減量は14.4%アップしました。また、サーバー室で発生した熱の処理に用いる冷却水の使用量を削減するため、本来廃棄されるはずの冷却水(ブロー水)を再利用。2021年度は、合計で15,860m³の再利用に成功しました。

2020年度 特定温室効果ガス実排出量・削減量



●東京都と合意した排出量を100%とする。削減量＝東京都と合意した排出量－実排出量

2021年度 ブロー水再利用率

平均 **38.2%**

| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | 1～3月 |
|--------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| ブロー水 | 9,400m ³ | 11,136m ³ | 11,195m ³ | 9,777m ³ |
| 再利用した水 | 4,191m ³ | 2,575m ³ | 4,883m ³ | 4,211m ³ |
| 再利用率 | 44.6% | 23.1%* | 43.6% | 43.1% |

*修理のため、機器がほぼ稼働しておらず、回収量が少なくなったことによる。

ノードアウンでのコンピューター室増設・設備増強と省エネを両立 — CC2がトップレベル事業所の再認定取得を達成 —

東京都では、地球温暖化対策の推進の程度が特に優れた事業所を、トップレベル事業所として認定しています。中央第2センター(CC2)は2015年度に認定を取得して以来、今回が初の更新年度となりました。

コンピューター室の増設や設備増強などをノードアウンで行いながらも、熱交換器の能力向上など、省エネのための取り組みを推進したことが評価され、トップレベル事業所認定を再度取得することができました。



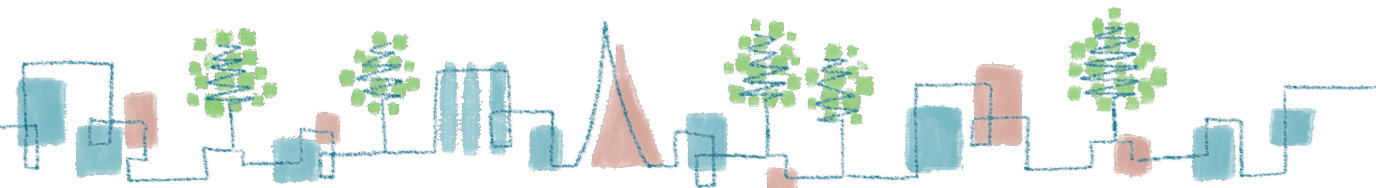
トップレベル事業所認定審査の様子



トップレベル事業所認定証



トップレベル事業所認定取得プロジェクトメンバー





アット東京「環境配慮型データセンター」の舞台裏

データセンター業界のリーディングカンパニーとして、24時間365日ノーダウンオペレーションを実現し、ニュートラルで柔軟な接続環境を誇るアット東京のデータセンター。そのアット東京にとっての「サステナビリティ」とは。脱炭素社会に向け、データセンターとしてできることから着実に、誠実に歩むメンバーたちの声をご紹介します。

トップレベル事業所認定は、ゴールではなく、スタートです

CC2の認定更新にあたり、リモートワークや交代勤務などのため、打合せの日程調整やメンバー間のコミュニケーションをとるのに苦労しました。そのような状況下での再認定となり、達成感を感じています。認定取得はゴールではなくスタートであり、省エネを継続し、次世代へつないでいくことが大切。メンバーの変更やガイドラインの改

訂にも対応できるよう、DCIMを活用したデータの可視化や整理などを進めてきました。今後もお客さまとともに、データセンターのさらなる高効率運営を目指していきます。

設備運用部 設備計画グループ 主任
鶴田 正志



社内外の協力を得て、PAC(パッケージエアコン)の空冷化を実現

CC1の空調における省電力のためのPAC空冷化について評価をいただきました。運用中のコンピューター室の空調と監視機能の両方を維持しながらの空冷設備更新には非常に気を遣いました。通常、室外機の設置場所は屋外ですが、今回は半屋外だったため、排熱が空間にこもる可能性がありました。そこで、CFD*解析などで設置環境の適否を確認。

これがCC1のPAC空冷化の最重要ポイントだったと思います。今後もメーカーさまや社内の協力を得ながら、省エネの取り組みを推進していきます。

設備運用部 統合監視グループ 課長
繁原 賢士



*Computational Fluid Dynamics(流体解析)の略称。
ここでは気流の解析のこと。

データセンター事業を通じた、持続可能な社会の実現を目指して

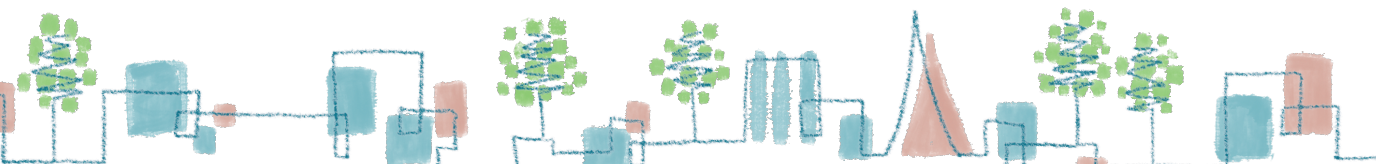
グローバルかつ長期的な視点で、環境や労働安全衛生への取り組みを進める必要性を実感しています。再生可能エネルギーへの転換は最重要課題のひとつです。その第一歩として、2022年10月より、再生可能エネルギー由来の環境価値を提供する「グリーン電力オプションサービス」を開始。また、24時間365日ノーダウン

を使命とする上で、社員の健康・安全を守ることにも重要です。ISO45001(労働安全衛生マネジメントシステム)に対応した管理体制を強化し、社員の安全・安心と健康を確保する職場環境づくりを進めていきます。

サステナビリティ推進部長
小林 公知



アット東京は、これからも省エネルギーや環境に配慮し、さまざまな業界のお客さまの利便性を高め、お客さまにとって価値あるデータセンターとなることを目指します。



株式会社アット東京 <https://www.attokyo.co.jp/>
東京都江東区豊洲5-6-36 TEL:03-6372-3500 FAX:03-6372-3009 Mail:at-sales@attokyo.co.jp

